

令和5年2月

魚津市定例記者会見



日時：令和5年2月1日(水) 午後2時30分～午後3時00分

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、NHK、
富山テレビ放送、NICE-TV、ラジオミュー

市当局出席者：市長、情報広報課長

1. 市長からの発表事項

(1) 魚津蟹騒動 ～紅ズワイガニをまるごと食べよう～ の実施について

- ・魚津港の主力製品のひとつである紅ズワイガニについて、かねてから休日の日中に食べられる場所が無いとのご意見があった。試行的に食べられる場所を設置することで需要を見極めたい。
- ・2月から3月にかけての土・日・祝にお昼過ぎまで蟹を食べることができる特設会場を設置する。場所は海の駅蟹気楼のイベントスペース。販売数は各回約200食を予定しており1杯1000円で提供する。なお、販売数については出漁や仕入の状況などにより減る可能性もある。1杯1000円という価格についてはかなりリーズナブルなものとなっており、1人1杯までという制限をつけさせてもらった。各回、用意したカニがなくなり次第終了となる。
- ・このイベントのパンフレット裏面には市内の宿泊施設一覧を掲載している。また、宿泊施設から利用者にこのイベントの紹介も行ってもらおうなど、連携を取りながら進めていく。
- ・パンフレット裏面下部では、魚津市がかに籠漁発祥の地であること、富山県内での水揚げ量が1位であり、平成30年のデータでは県内の水揚げ量の約半分が魚津となっていることも紹介している。これらのことをしっかりアピールして行きたい。
- ・これまで応えられていなかった休日日中の観光（グルメ）需要に応えられるやり方は何かということを経験を通じて把握していきたい。どうすれば恒久的な出店につなげられるかも探していきたい。

(2) 宮津霊園の『愛称』が決定しました

- ・市制70周年を記念し、市内の墓地「宮津霊園」の愛称募集を昨年11月から12月にかけて行った。その結果、県内外から106件の応募があった（内訳：市内23件、市外3件、県外80件）。その中から一次審査で10点を選び、その後、霊園近隣の自治会長を含む愛称選考委員会での選考を経て、愛称を「メモリアルパークうおづ」に決定した。
- ・霊園周辺は緑に恵まれた閑静な場所であり、公園のようにゆったり気持ちよくお参りできる環境であることからメモリアル(亡くなった人への追悼)とパーク(未永く市民の人々から親しまれる場所)という言葉を取り入れた名称となっている。
- ・採用された愛称の応募者は大阪府在住の池永一広さん。ちなみに「メモリアルパークうおづ」の応募者は池永さん1名のみ。記念品として魚津市の電子地域通貨 MiraPay (ミラペイ) 1万円分を贈呈する。
- ・今後はこの愛称を市民の皆さんに広めていきたい。

(3) 魚津市高校生合同動画制作プロジェクト 動画完成披露発表会を開催します

- ・今年度取り組んできた魚津市高校生合同動画制作プロジェクトの動画完成披露発表会を2月18日(土)に開催する。このプロジェクトは昨年夏から動いていて、市内4校の生徒からなる実行委員会メンバーが、プロの動画制作会社の指導を受けながらロケなどを行い、動画を制作した。
- ・若者の目に魚津がどう映っているのか、それをどのように切り取って、どのように伝えたいと思っているのかを共有したい。動画の具体的な内容は私も知らないもので発表会を楽しみにしている。

(4) 初の地域振興会コラボイベント「UOZUゲームジャム2023」及び

(株)ORENDA WORLD 澁谷代表記念講演「2023ポリテックビジョン in 新川」

が開催されます

- ・UOZU ゲームジャム2023については、5回目の開催となる今回、魚津市加積地域振興会と連携して開催する。地域でeスポーツ大会を開催するなど熱心な活動を行っている加積地域振興会とゲームのまち魚津とのコラボとなる。令和5年2月11日(土)から19日(日)までの9日間を使って開催する。振興会からゲームにしてほしいテーマを提示してもらい、それに基づき参加者がゲームを作る。制作発表会でも振興会に審査していただき、選ばれた優秀作品が今後の加積地域のイベント等で使用される予定。なお、オンライン開催の配信会場は魚津市トライアルオフィス necco。

- ・主催はつくるUOZUプロジェクト実行委員会。ゲストはプログラミングの宮島塾塾長の宮島武志氏と音楽・映像制作企業(株)スプラウト取締役の藤久尚子氏の2人。
- ・2023ポリテックビジョン in 新川については、毎年2月に北陸職業能力開発大学校で開催されているが、今回は記念講演の講師として、魚津市とクリエイター育成に関する連携協定を締結している(株)ORENDA WORLDの澁谷代表をお呼びし、次世代の仮想空間技術についてご講演いただく。(株)ORENDA WORLDはメタバース技術を用いた展開を行っている企業であり、それらの話が中心になると思っている。記念講演の日時は令和5年2月18日(土)の13:15から。
- ・この記念講演は北陸職業能力開発大学校新川地区振興会(新川地区の企業で構成される北陸職業能力開発大学校を応援していく企業グループ)と魚津市との共催となっている。

(5) 魚津市冬季ワーケーションモニターツアーの実施について

- ・令和5年2月2日(木)から5日(日)までの3泊4日の日程で冬季ワーケーションモニターツアーを実施する。参加者はIT・ゲーム産業等に携わる首都圏在住企業人とテレワーカーの10名を予定している。
- ・行程内容は、ディスカッション①として、2月3日(金)の14:00から16:00まで村木コミュニティセンターで「ゲーム・デジタルの街の可能性」をテーマに市内企業の職員や市職員と話し合いを行う。ディスカッション②は、2月4日(土)15:00から17:00まで、魚津市宮津のBOBO.にて「未来の魚津」をテーマに市内高校生、地域住民、市職員と話し合いを行う。翌2月5日(日)の9:00からは、ディスカッションで考案されたアイデアをツアー参加者が発表する発表会を魚津埋没林博物館で行う予定。
- ・モニターツアーの参加者やディスカッションに参加した市民の皆さんから出た意見等を今後の施策に反映していきたいと考えている。

(6) 魚津市まちづくりフォーラム2023を開催します

- ・日時は2月26日(日)の13時から。会場はありそドームの産業展示ホール。今回のフォーラムは自治基本条例の内容について理解を深める場とし、富山大学学術研究部教育学系教授 山根拓氏より「自治基本条例と持続可能な魚津」をテーマに講演していただき、その後参加者によるワークショップを行う。地域住民が自ら魚津を作っていくためにはどのような取り組みが良いのか話し合っていきたい。

- (7) 移住者交流会 うおづめし教室の実施について ～B0B0.で味噌造り～
- ・移住者との交流会は平成30年から実施してきたが、「うおづめし教室」としては令和2年度以来となる。開催日時は2月23日(木・祝)の11時00分から13時00分頃まで。会場は魚津市宮津の「B0B0.」。定員は魚津市へ転入して5年以内の方10名。イベント内容は味噌造りやご飯とお味噌汁を試食するランチ交流会。
 - ・イベントを通じ移住者のちょっとした困りごとやご意見をいただき、これからの移住施策のヒントとしたい。
- (8) 第7回観光地域づくりセミナー「これからの魚津市の観光が目指す姿を考える」
- ・令和4年度観光推進体制組織強化事業として、地域の観光関係事業者間の連携強化と意識醸成を図るため、これまで計6回の講演会や視察を行ってきた。目的は地域DMO(※)の設立。今回の第7回が今年度の最後となる。
- ※地域DMO(観光地域づくり法人)とは、地域の稼ぐ力を引き出すとともに「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら観光地域づくりを実現するための戦略を策定・実施するための法人。
- ・日時は2月20日(月)の15:00から17:00まで。会場は魚津埋没林博物館の研修室。講師として株式会社Connec.tの代表取締役/CEO 小口潤氏をお迎えし「これからの魚津市の観光が目指す姿を考える」をテーマに講演していただく。
- (9) 魚津市・滑川市・黒部市・入善町・朝日町コラボ企画
写真お見合い会の実施について
- ・新川3市2町のコラボ企画「写真お見合い会」を実施する。2月25日(土)に黒部市国際文化センターのマルチホールで行う。前回(R4.11.13)参加の新川2市2町に加え、今回は滑川市が初めての参加となる。若者が知り合うきっかけになればと思っている。

2. 質疑応答の内容

「イベント等でいただくご意見等の活用」について

《記者からの質問》

参加者から意見をもらいたいというイベントが多いが、集めた意見はどのように活用されるのか。

《回答》(市長)

意見をお聞きすることで、従来の方法に加え新たなものを取り入れることもあるし、逆にこれは要らなかったと次回から省くこともあると思う。一番大事なことはこれらのきっかけを増やしていくことだと考えている。

「地域DMOの設立」について

《記者からの質問》

地域DMOをいつごろまでに設立する予定なのか。

《回答》（市長）

できるだけ早く設立したい。個別の業界でそれぞれ頑張っても連携や統一感に限界がある。そろそろインバウンドも戻ってくると思われる。観光への意識の統一や集めたデータを次の展開に活かす土台を作りたい。

「魚津の紅ズワイガニ」について

《記者からの質問》

魚津の紅ズワイガニは水揚げ量のわりに知名度が無いと思われる。紅ズワイガニに関するイベントは他の自治体の取り組みを参考にしているのか。

《回答》（市長）

他の自治体や港の取り組みも知っているが、それと同じことをするつもりは無い。魚津に昼食時に蟹を食べられる所はあるのかと聞かれることが多いが、なかなか紹介できるお店が無いのが実情。ただ単純に蟹の店舗を出店してもコスト面やその他の理由により継続は難しいと思われる。今回の蟹騒動は、どのようにすればニーズに応えられるかを探っていくための出発点である。